第９回　春を待つ水鳥たちを見に行こう！
2026.1.25

毎年、冬の渡り鳥の観察をしている不忍池。その上野公園がこれまで多くの人たちの努力で守られてきたことをご存じですか？

江戸に幕府が開かれると上野のお山には東叡山寛永寺という寺が建てられました。花園稲荷の片隅、小さな洞に「穴稲荷」が祀られています。これは天海大僧正に休みどころを失ったキツネが現れ、そのことを哀れんでつくったものです。明治時代になって、医学指導をしたボードワン博士のために上野公園に大学病院建設計画が立てられましたが、それに反対して上野の森を守ったのがボードワン博士自身でした。その胸像が噴水広場に隣接する森にあります。寛永寺の建立とともにできた不忍池も明治時代になると埋め立て計画がありましたが、これも反対にあって中止。しかし、太平洋戦争のさなかは一部が畑や田んぼになり、戦後はすべて水田になってしまいました。昭和 24 年、浚渫が行われ、蓮池復元のために水を戻し、現在の姿になりました。そのおかげで今も多くの人たちに身近なバードウォッチングの場所として上野公園不忍池は愛されています。初夏の不忍池、繁茂するハスの合間ではバンの親子や運がよければカワセミに出会えるかもしれません。

すでに 26 期を迎えたこども環境委員会の修了生のこどもたちも社会で活躍されていることでしょう。これからも多くのこどもたちが自然とふれあう場所として上野公園をみんなで大切に見守っていってください。

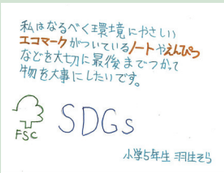
講師　　小野紀之

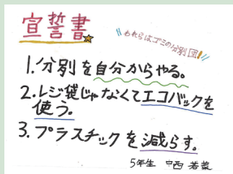
第 10 回　さあ、始めよう！私たちにできること
2026.2.15

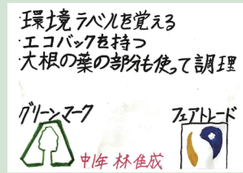
10 回目は終了式です。これまでの活動を記録した写真を見て体験を振り返りました。
自分の感想と、一緒に活動した友だちの感想を話し合いみんなで共有しました。

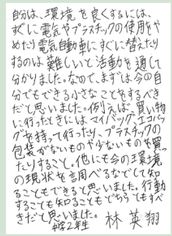
今期も比較的、会話をする時間を多く取りました。問題に対してそれぞれの考え方があったと思います。自分の考えをしっかりと持つことで、人の意見を聞いたときに話し合いが生まれてきます。これからの社会の主人公として自分で考え行動する人になって欲しいと願っています。今日書いた、未来への約束を果たせるように進んでいってください。

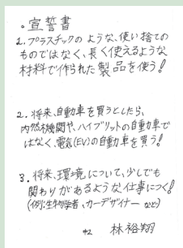
宝物を、宝物として守っていけるかどうか、今の私たちの行動が非常に重要です。

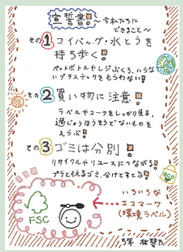


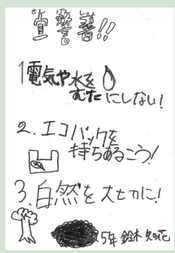


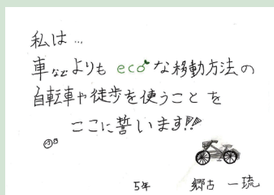


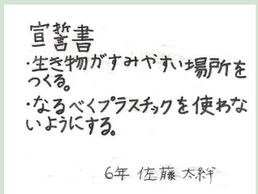












第 26 期　こども環境委員会メンバー（リーダー認定証・修了証取得者）

佐藤　太絆（台東育英小）　郷古　一琉（東泉小）　鈴木　知花（黒門小）
菱田　寿梨（東泉小）　林　琴乃（浅草小）　林　英翔（御徒町台東中）
林　裕翔（御徒町台東中）　林　佳成（忍岡中）　中西　若菜（黒門小）
羽生　そら（田原小）

こども環境委員会ボランティアスタッフ
碓水州恵　碓水成人　熊谷節子
坂下　誠　善財裕美　辻本利雄
渡　龍大（大学院生）　森下　祐菜（高校生）

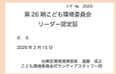
2025 年度台東区こども環境委員会活動報告書
編集：こども環境委員会ボランティアスタッフ
発行：台東区環境清掃部環境ふれあい館

※こども環境委員会のプログラムは地域の学び推進機構が運営する学びのポイントラリーに登録しています。

発行日　2026 年 6 月 14 日

台東区環境清掃部環境ふれあい館・こども環境委員会ボランティアスタッフ

第 26 期 こども環境委員会 活動報告書



2025 年度「第 26 期こども環境委員会」は小学校５年生～中学２年生 17 名から応募がありました。受入学年を変更して３年目ですが、中学生の参加者の増加や外国籍の生徒の参加もありました。

全 10 回のプログラムの内、７回以上参加した人にはこども環境委員会「リーダー認定証」、５回以上参加した人には「修了証」が授与されました。熱心な参加は、子どもたちにとって地球環境の変化が大きな関心の的になっていることの証左であり、現在の社会をつくってきた大人として胸が痛む瞬間でもありました。

参加者は、地球環境や地球上の生き物たちとのつながり、人との関わりなどを学び、いろいろなことを想像し、自分なりに考えながら１年間のプログラムを体験してきました。知って、考えて、行動する、その思いの一つひとつを大切に育て、つなげていく手助けができていれば大変嬉しいです。

時代の不透明感がより一層強くなり、大人も様々な判断に迷うことが増えてきています。スタッフそれぞれも常に初心に戻って地球の声に耳を澄ませると共に、見えなくてもあるものを感じ、考えていく力を養い、一つひとつ活動を積み重ねていきたいと思います。

第１回　オリエンテーション　「私たちの未来は？」
2025.6.15

今期は小学５年生から中学２年生まで１７人でのスタートとなりました。
第１回目の目的は、初めて出会う人たちとコミュニケーションを取る事、自分自身のことや、まわりのことを知る事、たった一つの地球の中が今どのような状況にあるかを大きな視点でとらえる事、そして自分に何かできることは無いか？と気づくことです。初対面の参加者同士の緊張をほぐすためにアイスブレークのゲームから始まり、環境漫画を含んだスライドを見ながら、自分たちの生活と地球の現状について考えました。以下は１回目が終わった後の参加者の振り返りシートに記された言葉の数々を抜粋したものです。

「地球で起きていること残酷さについて知り、私が今までやってきたことを振り返って、地球に申し訳ないことをしたなと思いました。けれど、ゴミの分別だけはしていたので、もうちょっと地球のためになる事をしたいと思います。」「頭では分かっていても、行動できないと意味ないのだなと思った。」「同じ地球を守る仲間なのに、競争するのは良くないと思った。地球を守るのは簡単じゃない、考えるだけじゃなく行動。」「楽で楽しい生活をしている人もいれば、大変で貧しい生活をしている人もいて、みんなが幸せで楽しい生活をして、平等になることが可能になって欲しいと思います。」「自分たちが環境の未来を変えて行かなければならないと思いました。自分たち一人一人がどういう行動をすればいいのか、考えることが大切だと思いました。環境委員会で色々なことを学び、それを生かしていきたいです。そして未来も変えて行ける人になりたいと改めて思いました。」「学校で習った今の地球の課題よりもとても複雑だったけど、良く分った。地球の課題や問題は、思っていたより改善しづらいことが分った。」「最初はどうなるのか不安な気持ちがあったけど、実際にゲームなどをしたとき、明るい雰囲気があって、これからの活動にとても期待が高まりました。仲間として、仲を深めるだけでなく、環境問題について考えて行動したいと思います。」

参加者たちの振り返りにあるように、第１回の目的を良く理解してくれたようです。これからの１年間で、スタッフの私たちが彼らに何を伝えられるか、彼らがどのように変わっていくのか、楽しみです。

担当スタッフ　　坂下　誠

第２回　使用済み食用油で石けんづくり
2025.7.20

今回はリサイクルに挑戦です。揚げ物など料理で使った油はその後の料理の中で徐々に使い切ってしまうことが一番良いのですが、それでも使い切れずに残ってしまった食用油（廃油）を原料にして石けんを作りました。作り方は苛性ソーダとお湯と廃油を混ぜるだけ。簡単に見えますが、リサイクルって実は時間も手間もかかり結構大変なのだということが実際に体験してみてわかりました。また、廃油のリサイクルは水を汚さない行動であることもわかりました。できあがった石けんは「環境ふれあい館まつり」など区内のイベントで来場者に配布します。添付するメッセージカードも書きました。

地球上では限られた水が循環しています。水を汚れを落とすものだと考えているのは実は人間だけで生きものは生きるために水を使っているのです。水を汚さないようにしていきましょう。

後半は、環境ふれあい館全体の見学と、前面道路での打ち水体験です。屋上にはソーラーパネルや太陽熱温水器がありました。屋上に降った雨水は地下に貯めトイレ用水の一部として利用されています。常設の資源回収拠点もあって、環境のことを考えて私たちにもできる行動を色々教えてくれる施設だということを知りました。打ち水には屋上に降った雨を利用しました。異常な暑さが続いていて、地面が熱くなっていたので撒いた水が一瞬で水蒸気となり蒸発しました。こんな体験はなかなか無いと思うとの感想や家でもやってみたいとの意見もありました。